

國學院大學學術情報リポジトリ

インターネット時代における寺院の社会関係資本：
阿南市におけるライブ配信を利用する平等寺の事例
から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-22 キーワード (Ja): 地域社会, 伝統仏教, ライブ配信, 社会関係資本, 聞き取り キーワード (En): 作成者: 蘇, 子喻 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001651

論 文 要 旨

学籍番号	233110	氏 名	SU ZIYU
論文題目： インターネット時代における寺院の社会関係資本 阿南市におけるライブ配信を利用する平等寺の事例から			
(内容の要旨) 本研究は、コロナ禍における不可抗力的な影響を受け、過疎地の寺院が法事の縮小化や門徒の異動、情報発信の難しさといった「過疎化」現象に対処するため、インターネットを活用する動きが見られたことを背景とする。宗教施設が地域社会におけるネットワークの中核として機能することが期待される一方、オンライン上で形成されるコミュニティが既存の地域コミュニティにどのような影響をもたらすかについては十分に解明されていない。そこで、徳島県阿南市の平等寺を事例とし、24 時間ライブ配信や SNS で宗教行事を積極的に取り入れる様子を踏まえ、社会関係資本の三要素（信頼性・互酬性・ネットワーク）に基づいて半構造化面接と質問票調査を実施した。2023 年 11 月と 2024 年 5 月・7 月に住職ら寺院内部関係者へのインタビューを行い、録音・文字起こしを実施。さらに、2024 年 5 月に配布し 10 月末に回収した質問票（檀家区分、年齢、性別、拝む頻度、バーチャル参拝・お布施の利用状況、地域交流、信頼性など計 9 項目）について相関分析と記述統計を用いて、宗教行為と社会関係資本との関連を検討した。 その結果、第一に、生配信開始後の平等寺では外部支援者が増加し、オンラインお布施が新たな収入源として機能していることが確認された。第二に、オンライン参拝や布施の利用頻度は低く、檀家・非檀家間の差異も限定的だった。第三に、信仰心の強さは他者への信頼度を高める可能性が示唆された。この知見は神社を対象とした先行研究の結果と部分的「伝統宗教に対する信仰心と信頼度との相互的な関係性」仮説に支持していた。また、地元住民が協力して竹曼荼羅を制作する事例では結束型ネットワークが、キャッシュレス対応により外国人参拝者を含む多様な人々が利用しやすくなる事例では橋渡し型ネットワークが確認された。 本研究から得られた知見から、オンライン配信や SNS 活用は寺院活動や地域住民との関係性にポジティブな影響をもたらし、過疎地の宗教施設運営や地域コミュニティの活性化にも寄与する意義があると議論した。 844 字			
キーワード (5 語) 地域社会、伝統仏教、ライブ配信、社会関係資本（ソーシャルキャピタル）、聞き取り			